

成果報告書

(地域文化倶楽部創設支援事業)

東京邦楽器商工業協同組合←団体名等

所在地	東京都江戸川区 平井4-1-17	設立年	2004/3/10
運営主体	東京邦楽器商工業協同組合		
事業目標	組合員の相互扶助の精神に基づき、組合員のために必要な共同事業を行い、もって組合員の自主的な経済活動を促進し、かつ、その経済的地位の向上を図ることを目的とする。		
きっかけ	邦楽業界の調査研究、後継者育成、福利厚生取り組み		
団体・組織等の連携	当組合が中心となり、長唄協会並びに端唄協会との連携を持ち、地域学校との橋渡しとして楽器の準備、指導者の手配など講座のコーディネートを行う		
活動場所	東京都、茨城県、千葉県、埼玉県、群馬県、神奈川県、山梨県		
活動概要	邦楽器の普及活動、人材育成及び確保、技術の伝承		

○本事業による成果

従来の活動の成果のみではなく、本事業を実施したことにより得られた成果について記載すること。(数値やグラフで示すものがあれば望ましい)

当組では、地域文化倶楽部事業においての成果は非常に大きなものが得られた。①東京都内の中7講座を開催してより多くの実施できた。(10講座を予定していたがコロナ禍の為、減少)各地域において楽器商が学校と指導者の接点を取り、非常にスムーズな講座の開講が出来た。学校側としては、邦楽器の準備から片付けまで、楽器商が全て行うことで、見守るだけで安心して開講ができた。

また、指導者としては教員が指導する必要が無く、教員も一緒に邦楽器の講座に参加が出来た為、教員自体も邦楽の体験を通じて授業姿勢を学ぶ事が出来た。

この様な楽器商が主体となり、教育現場との太いパイプが築けたことにより学校の保管されている楽器のメンテナンスも可能となり、邦楽器の受け入れ体制が構築できた。次年度に向けて大きな課題が収穫できた。

○児童・生徒への指導に関する工夫

指導を行う上で独自で工夫していることについて記載すること。

一流の指導者を手配することにより、本物の音、本物の演奏技術を見せる事が出来た。

○運営上の工夫

運営上、工夫している点を記載する。

学校教育の現場における、指導者の煩わしさをなくした本格指導の導入が出来た。

○継続的な運営に関する課題・展望

活動場所、指導者、活動経費、教育機関や地域等との連携等、様々な観点からの課題と展望を記載する。
今回の事業は各地で単発の講習会であったが、今後は複数回ずつ行えるようにしていきたい。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

上記の課題をどのように解決し取り組んでいくのか、方針や計画を記載する。

【ここをしっかりと記載していただきますようお願いします。】

邦楽器商が中心となり、学校教育の現場に踏みこむ体制づくりが出来た。これを足が掛かりに、開催する学校をしていく。
学区域に隣接する楽器商が連携をとり、学校に眠っている楽器を復活させ、授業にも活用できるように、細やかなサポートをしていく体制を整えて行く。

※上記4点の記載の中に活動の画像を挿入してもよい。

※『地域移行(展開)を進める際のポイントチェックリスト』を参照すること。

参加者 (予定人数)	小学校高学年及び中学生 283人
募集方法	学校での通知
指導者	楽器商の推薦する各流派の指導者
移動手段	学校内での実施
活動費用	楽器商が準備の為、参加者負担はなし
スケジュール	学校側との協議
保険加入等	なし

※文化庁ホームページ:地域文化倶楽部(仮称)の創設に向けた検討会議 [事例集](#)を参照

掲載URL

(https://www.bunka.go.jp/shinsei_boshu/kobo/pdf/92801101_09.pdf)

※それぞれの項目に掲載しているのはあくまで例示ですので、掲載しているもの以外の観点等で自由に
記載していただいて結構です。ただし、どこかの項目に学校の働き改革(教員の負担軽減)を踏まえた
観点の記述を必ず入れていただきますようお願いいたします。(本事業の最大の目的であるため)



















井草中







石神井東中学校

